

## 第 53 回沖縄県振興審議会主要意見

平成 21 年 9 月  
県 企 画 部

### 【ビジョン全体への意見】

- ビジョンは、県民がわかりやすいように、長文の報告書タイプではなく、20～30 ページ程度のものにした方がよい。 (仲本委員)
- 概略版に頼るのではなく、ビジョン本体も文章を縮めて、わかりやすい言葉にしてほしい。 (仲田委員)
- 同じ表現、内容の重複が多い。また、抽象的で難しい表現が多く、読みにくい。 (「東洋のジュネーブ」「ソフトパワー」「人を昇華させるエキスが存在する」など) (仲本、砂川、仲田委員)
- 総花的な感じがするので、大きく方針や視点が変わる事項、大きな柱となる施策、目玉事業を強調し、特化して記述してほしい。 (仲本委員)
- 「沖縄をこうしたい！」というものが感じられない。 (早田委員)
- 2030 年に沖縄と日本の関係がどうなっているのか、道州制についてももっと記述があったほうがよいのではないかと。 (饒波委員)
- 沖縄の優位性は、地理的条件だと思う。地場産業も沖縄の気候や歴史など特異性があるため、認められてきた。沖縄のポテンシャルをもっと促進するためには、アジアパワーとの接触が必要。それは、観光、IT、物流などを中心に進めていってほしい。 (桑江委員)

【「はじめに」についての意見】

- 「ビジョン策定の意義」については、文章が長すぎて、わかりにくい。県民が理解しやすいように、簡潔にわかりやすい表現に変えるべきだ。

(仲本、仲田委員)

- 最初の方に、最重要事項や考え方、これまでの進め方から方向性を変える事項など、記述する内容を絞り、きっちりと記載していくべきだ。

(例：ミチゲーション、自然回復、車社会からの脱却、人材教育)

(仲本委員)

【「時代潮流」への意見】

- 時代潮流は、別添でいいのではないか。

(仲本、仲田委員)

- 人口構造について、ビジョンでふれる必要はなく、環境問題、グローバル化の記載も「将来像」の中で簡潔に記述したらいい。

(仲本委員)

【「特定課題」への意見】

- 復帰以降これまでの振興策のよい面、悪い面の客観的な評価、反省事項を具体的にわかりやすく記述するべきだ。

(仲本委員)

- 基地について、単に負担過重だけでなく、基地依存状況（軍用地代等）や返還に向けての課題を明確に記述した方がよい。

(仲本委員)

- 離島は、課題としてだけでなく、公益的機能や価値、潜在価値などの強みを強調して記述した方がよい。

(仲本委員)

【「基本理念」への意見】

- 前段の記述に比べて、内容が薄く、軽すぎる。ここに、一番重要な考え方と、進めていく方向性などを書いた方がよい。

(仲本委員)

## 【「めざすべき将来像」への意見】

(全体)

- 前段部分と将来像の記述で、抽象的な表現が多く、難しい言葉が多いためわかりにくい。また、文章が長いため、後の文章に入りにくい。

(仲田委員)

(沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島)

- ゴミ問題は、ゼロエミッションという視点ではなく、食料等の自給率を高め、島の中で循環できる仕組みを考え、別の表現にしてほしい。

(野原委員)

- 「国際的な環境モデル地域」において、きちんと沖縄の現状が記載されていない。取り組みの基本方向では、総合部会の意見だけでなく、県の関連部局の意見もきちんと取り入れてほしい。

(玉栄委員)

(心豊かで、安全・安心に暮らせる島)

- 疾病や介護については誰もが共通して抱える不安要素であるので、「疾病や要介護状態、心身の障害等なる当事者、家族等の生活」についても、記載してほしい。

(山内委員)

- 「地域社会」において、「コミュニティの再生」や「住民と行政との連携」の他、「住民相互の支えあいの仕組みづくり」についても、明記してほしい。

(山内委員)

- 社会的な諸課題の解決に市民自ら主体的に取り組む NPO 活動の広がりや、地域活力と市民社会の成熟度を測る指標であり、今後の成長が期待されることから、NPO について、記述を追加してほしい。

(山内委員)

(希望と活力にあふれる豊かな島)

- 沖縄の経済のあり方、産業振興、雇用創出について、記述が薄い。

(前田、仲田委員)

(世界に開かれた交流と共生の島)

- グローバル化の進展に伴う、様々な面でのリスクマネジメントについても記載すべきだ。異国を受け入れ、共生する為の仕組みづくりが必要である。

(東委員)

- 「今時大戦でアジアの各国と戦争で被害を被ったことを共有しており」という意味にとられる文章があるが、ビジョンを曲解されてしまう可能性があり、危険ではないかと思う。 (饒波委員)

(多様な能力を発揮し、未来を拓く島)

- スポーツに関する記述が少ない。スポーツは、人材育成だけでなく、健康・長寿、産業振興、雇用創出、国際交流・共生など様々な分野に関連するので、「スポーツ・アイランド沖縄」という基本構想と整合性をとりながら、スポーツをビジョンに位置づけてほしい。 (當山委員)

【「将来像の実現に向けた戦略」について】

- LRTの導入をビジョンの柱の一つとして入れてほしい。南北、横を走るようなそういう鉄道、公共交通機関が必要だという提言になっている。経済同友会で、提言書を県に提出する予定。 (仲本委員)
- 「国内・国際航空路の展開」において、東アジア諸都市との路線拡充と記載されているが、2030年の航空輸送能力を見据え、アジアに限定しない表現にした方がよい。 (東委員)